



台風への備え

事前の対策・行動

もしもの備え

パナソニックの電池防災グッズ



家の中の備え



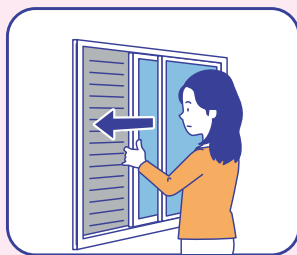
食料・飲料水など
最低でも3～7日分を
備蓄する

台風は停電や断水などライフラインが途絶える可能性もあり、あかりなどの確保も必要。



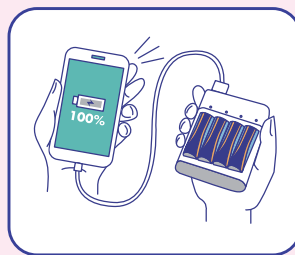
風呂に水をためて
生活用水を確保する

トイレや洗濯などに使えるよう、飲料水とは別に、浴槽やペットボトルなどに生活用水を確保。



窓や雨戸はしっかりと閉め、
鍵をかける

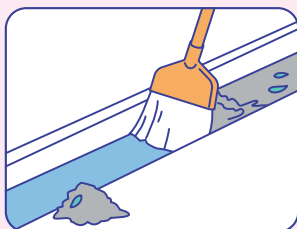
強風で飛ばされてきたモノが当たってガラスが割れないように、しっかりと閉める。(雨戸がない場合は、ガムテープなどで目張りを)



最新情報を確認できるよう、
ラジオの準備や
スマートフォンの充電を

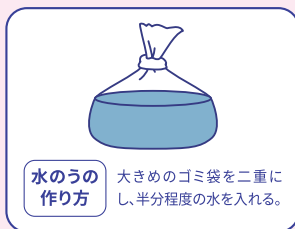
通信障害に備えて、情報収集の手段は複数用意するのが安心。ラジオは事前にエリア周波数を確認し、スマホはモバイルバッテリーも用意を。

家の外の備え



被害軽減のため、
側溝や排水溝、雨どいを掃除する

側溝や排水溝、雨どいにゴミなど溜まっていると、水が流れず浸水リスクが高まる。雨風が強くなる前に掃除を。



水のうの
作り方 大きめのゴミ袋を二重にし、半分程度の水を入れる。

浸水の可能性がある地域は
土のう・水のうの準備も

土のう・水のうで玄関や出入口を塞いで、浸水被害を抑える。



風に飛ばされそうなものは、
固定するか屋内へ移動を

植木鉢や自転車など、屋外に置いているものは、屋内に移動。プロパンガスが外にある場合は固定されているか確認を。

避難の備えとタイミング

台風は進路や接近のタイミングが予測できます。最新情報を確認し「備え」と「避難計画」を立てましょう。

事前に確認すること

▶ ハザードマップで自宅の浸水・土砂災害などのリスク確認

自宅とその周辺がどの程度浸水するのかが確認。

- 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っているかどうか
- 浸水の継続時間はどのくらいか 等

▶ 内水ハザードマップも確認

河川から遠い場合も排水が追いつかず、浸水してしまうことも。「内水ハザードマップ」を確認。



最新情報に応じた避難計画

< 接近、直撃の恐れがある場合 >

▶ 強風域に入る前に指定の避難場所に避難

- 強風や豪雨、または夜間など、外に出るよりも自宅にどまった方が安全な場合はなるべく高い場所へ移動。
- 斜面や水面が近くに存在する場合は、その反対側の部屋待機。

< 進路から外れている場合 >

▶ 無理に動かず1Fから2Fへ移る「垂直避難」も有効

